799
389

0038147000

0038147-000

７９９－３８９

昭和一五年の愛国婦人会を回顧して

愛国婦人会・編

愛国婦人会

昭和１６

AGG

799
389

昭和十六年一月

昭和十五年の愛國婦人會を回顧して

愛國婦人會

內容

一、總裁殿下の御精勵

二、朝香宮殿下並賀陽宮妃殿下地方支部へ御成り

三、事變第四年に於ける本會々務の展望

(一) 軍人援護事業

生業援護

生活援護

母子寮

慰問演劇團の派遣

產具配給

軍病院療養所設備及日用品獻納

傷痍軍人配偶者斡旋

前線將兵の慰問

(二) 厚生事業

(三) 軍人援護精神の昂揚に關する運動

協議懇談會

發行所寄贈

映畫
展覽會
英靈を仰ぐ婦人の夕
(四) 婦人報國運動
(五) 本會通常總會及支部總會其の他
第三十九回會員通常總會
支部總會
臨時總會
地方本支部分會役員懇談會
婦人報國祭
日の皇子の祝ひ日
紀元二千六百年記念式典
(六) 會員增加の趨勢及歲出決算
(七) 全國細部組織整備の現況
(八) 愛國子女團の現況
(九) 會誌「愛國婦人」の現況
(十) 其の他
主事會議
本部職制改革

799
389

一、總裁殿下の御精勵

畏くも　總裁殿下には本會々務の爲、常に御心を勞せられ、各種軍人援護施設の御視察に、本會々員總會に、或は地方本支部總會に、遠く邊陲の地までお成りあらせられ、會務に御盡瘁遊ばさるゝ御事は、恐懼感激措く能はざるところで御座いますが、昨十五年に於いても四月二日には群馬縣支部に於ける有功章御親授式並に會員總會に、又六月五日には東京市小石川區所在本會中央軍事援護館へお成りあらせられ、皇國の御楯となった勇士の寡婦及出征軍人の家族が雄々しくも生活戰線へとミシンを踏む狀況並に附屬保育所のゆどけない園兒の姿を御感一入に御視察あらせられ、次いで淀橋區東大久保所在、本會第二陸軍病院入院傷兵家族寮へ台臨の上白衣勇士の家族に溫きお言葉を賜はり、次いで又本會陶區軍事援護館に成らせられ、軍人遺族及家族の作業を御覽遊ばされ翌六日には、本會小石川區軍事援護館及本會芝區軍事援護館等をも御巡視あらせられました。

又、十月二、三、七、八の四日間に渉り本會々員總會に先立ち有功章御親授式を執り行

はせられ、九日は

皇后陛下の行啓を仰ぎ奉り、本會々員總會へ台臨あらせられました。

更に、十月二十日には遠く九州宮崎市に於ける、有功章御親授式並に同縣支部總會に台臨、翌二十一日には都城愛國子女團、祖國振興隊作業等を御視閲、二十二日には同縣下延岡分會御視閲、翌二十三日には大分市に於て有功章御親授式に台臨、次いで軍人遺族家族授産場其の他を御視察。二十五日には大阪市御着、同地に於て有功章御親授並に分會御視閲の上二十七日御歸京遊ばされました。

この間、宮崎神宮御參拜、日向建國博覽會、皇宮址、八紘一宇基柱御視察、或は陸海軍病院、傷痍軍人療養所御慰問等極めて御多忙なる御日程に御終始遊ばされました。

更に又十一月三十日には、軍事保護院經營の失明傷痍軍人寮に成らせられ、寮に於ける教育狀況を具に御視察の後、寮生一同に對し特に親しく懇ろに御慰藉の御言葉を賜ふと同時に御紋菓及特に葉山御別邸より御取寄せの水仙花を御下賜あらせられました。

之を拜し奉りました會員は更に碎勵の誠を致し、一層會務に盡瘁し、以て婦人報國の

爲に努力いたさなければならないと感奮興起いたしたのであります。

二、朝香宮殿下並賀陽宮妃殿下地方支部へ御成り

朝香宮殿下には昨十五年二月二十二日奈良縣支部へ御成りあらせられ同支部經營軍人遺族家族の爲の授産場を御視察、支部副長より施設の概要についての御説明を御聽取あらせられましたが、更に四月七日には德島縣支部授産場、五月十三日には福井縣支部授産場へも台臨の榮を辱ふし其の他山梨縣支部等に於ても御査閲を賜ひましたことは支部關係者は申すに及ばず、縣市當局並に縣民一同の深く光榮に感激致したところであります。

又、賀陽宮妃殿下には、十月十四日岩手縣支部にお成りあらせられ、遠山支部副長の御説明御聽取の後、授産場作業室に於て縫製作業の狀況をいとも御熱心に御視察をたまはり、一同深き感激に浴したのでありました。

三、事變第四年に於ける本會々務の展望

〔一〕軍人援護事業

昭和十五年に於ける本會の業績を回顧いたしますると、事變第四年に入り、分會以下の細部組織が整備せられたもの約九十パーセントに上り、會員各自の緊密なる協力と活動とが急劇に強化いたしました。其の結果、十四年度本會及會員各個人の歳出及支出を總計するに（分會以下分區の歳出をも推算す）少くとも約二千五百萬圓に上る見込であります。

又、昨一年間に於ける新入會員總數は約百萬人に上り、現在會員總數約六百萬人を算するに至り會勢の伸展と共に本會の事業も又空前の活動を示して居るのであります。

本會の傳統的事業である軍人遺族家族に對する援護事業は、事變が長期に亙るに伴ひ生活援護より生業援護へ、物的援護と共に精神援護へと漸次に移行しつゝあります。即ち昨年に於ては、前年度に引き續き授產場其の他職業補導等の生業援護事業は一段と充

實强化せられ、尙之が運營上に精神的指導が加重せられ、銃後家庭强化運動の一翼として重要性を增すに至りました。

銃後に於ける人心の弛緩を戒め、特に軍人遺族家族の家庭生活の健全性を保持し、前線將兵をして眞に後顧の憂なからしむる爲、前年來實施いたしました銃後家庭强化運動は未着手であつた地方本、支部に於ても眞劍に立ち上るに至りました。而してその實施方法も、府縣等關係方面と益々密接な連絡の下に效果的に遂行せられるに至つて居ります。尙遺族家族である寄邊ない母子を對象とする母子寮については、特に本會基本金中より十五萬圓を支出し、地方本支部の施設に對し補助する方針を執りました結果、十七本支部に於て之が建設を計畫し、尙着々增加を見つゝあります事は、洵に意義深い事と痛感する次第であります。

其の他、出征軍人の歡送迎、慰問袋贈呈、慰問文發送、陸海軍病院慰問、勞力奉仕、遺族家族家庭訪問、勤勞奉仕、慰靈弔祭、遺族に對する　皇后陛下御歌奉揭用額椽贈呈等、全國に共通する一般軍人援護事業は會員の增加と其の活動組織の單位たる分會以下

の整備と共に愈々充實し、他面地方の事情に應じ、支部及分會に於ける獨自の特色ある施設は、婦人特有の細心なる注意と溫情とに依り、注目すべきものが益々多きを加へつゝある狀況であります。

又、本會が昭和七年以來、主として軍人遺族家族たる妊産婦に對し、供與して來ました消毒衛生産具セットは資材入手難の折柄、多大の困難に遭遇しつゝも萬難を排して之を續行し、時節柄絶讃を博しつゝある事も特筆に値する事項として玆に附記する次第であります。

以上は昭和十五年に於ける軍人援護事業の概要でありますが、今その内容に就いて更に略記すれば左の如くであります。

生業援護

農村に於ては副業の斡旋、生業資金の貸與、機械、器具の給付等各種の方法がとられてをりますが、都市部にては軍隊用上衣、下袴、病衣、襟章、肩章、胸章等の縫製、兎皮加工等が居宅又は授産場に於て行はれてをります。

本年末現在に於ける軍人遺族家族を對象とする授産場及授産講習所其の他常設の生業援護施設は全國を通じ約百八十ヶ所に上つてをります。

生活援護

本會の傳統的軍人援護事業である生活援護は、全國地方本支部を通じ經費總額約五百六拾餘萬圓に達してをりますが、分會以下の下部組織に於て支出した應急援護、盆暮等の季節援護、罹災扶助等の一時的援助をも合算すれば、頗る巨額に上ることが推算せられます。

母子寮

寄邊ない軍人遺族家族の母子に住居を提供し、母性をして安んじて子女の敎育に專念する事を得せしむると共に、自主獨立の生活能力を賦與し、以て家庭强化の一助とする爲、全國の主要都市に設置しました愛國母子寮は本會が基本金中より支出した助成金と地元地方本支部の努力とに依り、本年末までに左記の如き成績を得ました。すでに建設を終り若くは進行中のもの

北海道、朝鮮、福島、新潟、石川、福井、山梨、神奈川、靜岡、兵庫、島根、鳥取

以上十二支部、十四ケ所

計畫中のもの

東京、長崎、德島、沖繩、香川

以上五支部、五ケ所

慰問演劇團の派遣

傷痍軍人及軍人遺族、家族等を慰問し、慰藉する目的を以て、軍事保護院及恩賜財團軍人援護會の後援と東京日日新聞及大阪毎日新聞社の協賛とを得、新國劇青年部慰問演劇隊を全國中左記十ケ所に派遣し、非常な好評を博しました。

伊豆伊東	八月九日	於伊東劇場
三島	八月十日	於歌舞伎座
濱松	八月十一日	於新歌舞伎座
豐橋	八月十二日	於東雲座
岐阜	八月十四日晝	於日吉座
大垣	八月十四日夜	於松竹座
大津	八月十五日	於大黑座
大阪	八月十六日	於日赤病院
高知	八月十八日十九日	於高知劇場
姫路	八月二十一日	於山陽座

產具配給

產褥用品、嬰兒用品等、產時に必要な衞生材料を一組として箱入とし、軍人遺族家族である妊產婦に贈呈したものは約四千個（一個につき四圓）に達してをります。

軍病院療養所設備及日用品獻納

全國に於ける陸海軍病院に對し、本會は從前から慰安室、日光浴室等を會員の零細な醵金等を主とする寄附金を以て、建設寄贈して來ましたが、本年は軍事保護院當局と連絡協議の結果、更に傷痍軍人溫泉療養所に、地方本支部が當該所長と協議し、必要な慰

安施設又は入所者の日用品等を献納することに致し、本部は之に對し一ケ所五百圓迄の助成金を交付いたしました。

即ち慰安室、日光浴室献納の外、温泉療養所に慰安設備又は日用品献納は栃木、和歌山、富山、鳥取、長崎、大分、静岡、岩手、山口、北海道の十支部約五千圓であります。

傷痍軍人配偶者斡旋

事變の擴大と長期化が豫想せらるゝや、本會は關係官廳、大日本傷痍軍人會、其の他斯道權威者の意見を徴し、傷痍軍人配偶者斡旋の計畫を進め、施設の計畫を樹て、地方本支部に之れが積極的活動を慫慂すると共に、本部に於ても斡旋機關を設け十四年一月から正式に申込を受付け事業を開始致しましたが、昨年十一月現在の成績は別表の通りであります。

傷痍軍人配偶者斡旋（本部扱）

申込別（自昭和十四年一月至昭和十五年十一月）

申込	男	女	計
三五歳	四	一	一
三六歳	六	一	二
三七歳			
三八歳	一		一
三九歳	四	一	二
四〇歳			
四一歳	一		一
四二歳	一		一
不明	二	一	三
計	一三	一〇	二三
平均年齢	二六・三	二六	二九 二四・七 二六・九 二七・一 二六・九 二五・三

（備考）成立の内には擧式未濟の分をも含む。

傷痍軍人配偶者斡旋（本部扱）

申込別（自昭和十四年十一月至昭和十五年十一月）

申込	男	女	計
愛婦本部	三一	八二	一一三
臨時東京第三陸軍病院	八六	二三	一〇九
軍事保護院	〇	一七	一七
大日本傷痍軍人會	一	〇	一
其他	三	八	一一
計	一二一	一三〇	二五一

年齢及處置別（自昭和十四年一月至昭和十五年十一月）

年齢	申込數 男	申込數 女	成立 男	成立 女	取扱中 男	取扱中 女	取消 男	取消 女	斡旋不能 男	斡旋不能 女	支部移牒 男	支部移牒 女
一九歳	三		二									
二〇歳	一											
二一歳		九		四		三		二		一		
二二歳	一	三										
二三歳	六	二	一		二	一		七		三		
二四歳	二	一五	三	三	二	六	二	二	四	四		
二五歳	一〇	一六	二	五	二	三	二	六	三	五		
二六歳	一六	一三	二	三	五	三	五	三	一	一		
二七歳	六	一三		二	一	三	三	三	一	三		
二八歳	一七	一〇			五	三	五	四	二	二	三	
二九歳	一三	八			三	四	五	四	二	二	一	
三〇歳	六	九	一	一	三	一	五	二	二	一		
三一歳	四	三	一	一		一	一	三				
三二歳		一										
三三歳	四	三	一		一		二					
三四歳	七		二									
三五歳	四	一	二				一					
三六歳	六	一	一		二		二					
三七歳												
三八歳	一											
三九歳	四	一			二	一	二	一				
四〇歳												
四一歳	一											
四二歳	一											
不明	二	一〇										
計	一三	一三〇	一三	一三	一九	一九	三六	三六	二七	二七	一〇	一〇
平均年齢	二六・三	二六	二九	二四・七	二六・九	二七・一	二七・九	二七・九	二五・三			

（備考）成立の内には挙式未済の分をも含む。

成立を申込數に比較致しますと、男は一割九分、女は一割七分强になります。又取消した者を差し引いて計算致しますと、男女二割八分成立した事になります。成立組數は二十三組であります。（地方本支部の斡旋に係るもの此の他に七十一組を算するも報告漏のもの少からざる見込）數に於ては、甚だ少いのでありますが、男でも女でも條件の良い人は親戚とか、知己とかの周旋で結ばれますのが多く、會へ申し込んで來る者は、全部とは申されませんが、大部分は極めて條件の悪い、世に惠まれない人たちが多い樣であります。

夫れに學歴、年齢等何れも食ひ違ひがありますので、益々成立を困難ならしむるのであります。けれども、かうした惠まれない傷痍軍人を、一人でも多く御世話をいたし、大地の上にどつかりと生活の足場を作つてさし上るやうにする事が、尤も緊要であると極力努力致してをる次第であります。

前線將兵の慰問

本會々員が作製又は募集し、前線將兵に贈つた慰問袋及慰問文の數は確定的な數字を

得ませんが、慰問袋だけについて見るも少くも、二百數十萬個に達する見込てあります。

〔二〕厚生事業

高度國防國家を建設し、東亞共榮圏の確立を圖る爲、缺くべからざる重要事項の一が人的資源の確保に在ることは申す迄もない事であります。故に、本會は早くから母性及兒童保護の施設に努力する所がありましたが、昭和十五年に於ては此の點を重視して更に一段の躍進を遂げてをります。即ち保育指導員の養成配置を見るに至りました。

人的資源の確保は先づ母性の保護敎化に始まらなければなりません。しかも農村母性のそれは個別的、具體的指導を必要と致します。季節保育所には農村に於ける母性兒童の保護を通じ、間接に母性敎化に資する處少くないものがありましたが、本會に於ては この季節保育所の保姆に榮養、保健、衞生等につき高度の敎養を賦與し、保育所開設期

間外、妊產婦、乳幼兒の家庭を訪問して、相談指導に當らせ、之を保育指導員と名づけたのであります。取り敢へず昭和十五年に於ては、石川縣支部を始めとし、十支部二十ケ所、約一千名の保育指導員講習を終りました。

この企に對しては厚生省當局から多大の後援を得、地方當局に對し協力方の通牒を發せられた外斯道の權威者である關係局課の三技師を指導の爲、派遣せられましたことは本會の感謝に堪へないところであります。

恩賜財團愛育會に於ても同樣、大いに厚意を寄せられ特に多大の援助を與へられましたことは、特筆して又深く感謝いたすところで御座います。

本會は早くから季節保育所の普及に努めて參りましたが、事變以來、年毎に增加し勞力不足に惱む農村の勞働能率增進に寄與すると共に、勞働力負擔の過重に虐げられつゝある母性と乳幼兒の保護に多大の貢獻を致しました。

昭和十五年に於ける開設數は約九千ケ所を越えたものと推定されます。

尙、保育指導員講習會の開催に伴ひ、保姆養成講習會が關係方面と協力し、二十三支

部百五ヶ所に於て開催せられ、約五千名の講習を終つたことは、季節保育所開設の難點である保姆難の緩和に資する所が少くなかつたものと思はれます。

右の外、宮崎縣支部を始め、十數支部に於て母乳不足兒に對し牛乳、粉乳補給施設が講ぜられましたことや、妊産婦、乳幼兒健康相談所の開設、赤ちやん審査會の開催、助産（委託産婆による無料助産、産院經營）常設保育所（約五十ヶ所）等其の他、地方に依り各種の母性、兒童保護施設が講ぜられてをりますが、茲には特に繁をさけて省略致します。

（三）軍人援護精神の昂揚に關する運動

軍人援護に關する婦人團體幹部協議懇談會

本會は前年來、軍事保護院指導の下に京都府支部外、十三支部管下に於て、大日本國防婦人會等と共に標記の會同を行ひ軍人援護思想普及運動に努力してをりますが、昨年も引きつゞき鳥取、高知、長崎、福井、秋田、山口、岡山、愛媛縣各支部管下に於て之を開催して、軍人の遺族及家族に對する生業援護、協力支援並に傷痍軍人の婚姻問題に關する具體策等に就いて協議を遂げ本運動に一段の效果を擧げることを得ました。

因に本運動に關しましては、經費及協議進行方に就いて縣當局の非常な御後援を得ましたことは感謝に堪へないところで御座います。

映畫

本會の事業を世人に周知せしむると共に、會員の指導に資する映畫の製作をめざして『銃後婦人だより』第一、二、三輯各一卷を製作し、又、家庭强化の歌の普及をはかるため『銃後の日本大丈夫』二卷を製作致しました。このフィルムは本部及び各地方本支部の映畫班に配給し、大衆に訴へるため、讀賣ニュース等と提携して全國常設館に上映せしめました。又本會の左記活動狀況卽ち、長野縣の花嫁修練所、神奈川縣の湯河原町分會の植林、山梨縣會員の葡萄園奉仕、子女團の慰問人形製作狀況、伊太利使節へ會員の人形贈呈等は日本ニュースに挿入して本會活動の一部を一般大衆へ周知せしめることに努

めました。尙「銃後の日本大丈夫」は國光映畫配給網によつて九州、關西方面に映畫『奥村五百子』上映と共に各常設館で上映せしめました。

其の他、地方の博覽會餘興場、特殊の催物、又希望のニュース館等へは以上の映畫を上映せしむる外、支部の依頼に依り『北海道女性進軍』を製作してをります。

展覽會

本會々員總會に際し、本部に於て『二千六百年奉祝銃後女性展覽會』を開催し、地方には岡山、富山、鹿兒島、大阪、京城、北海道其の他約二十ヶ所に於て之を開催し、國表、全紙寫眞、ヂオラマ等を展覽して、本會使命の周知方に努めたのであります。

『英靈を仰ぐ婦人の夕』の開催

政府の主唱に係る『銃後奉公强化運動』(期間自昭和十五年十月七日至同十月十一日)に基き、一般國民の軍人援護精神昂揚を圖るは素より、傷痍軍人、歸還軍人、軍人遺族、家族も共に起つて護國の神靈を仰ぎ、相率ゐて興亞の聖業に貢献せしめんとする趣旨の下に本會、大日本國防婦人會、大日本聯合婦人會及大日本聯合女子青年團が共同して軍事保護院及文部省の

後援を得、『兵隊さん有難う』運動を全國的に展開致しましたが、東京に於ては右運動の一環として、十月十五日夕日比谷公園大音樂堂で『英靈を仰ぐ婦人の夕』を開催致しました。

(四) 婦人報國運動

昭和十五年に於ける本運動は、多年唱道し來つた點に鑑みまして、生活刷新、資源愛護、物資節約、貯蓄勵行等國策に副つて最善を盡したのであります。

即ち各府縣支部主催にて、生活刷新指導者養成講習會を開催せしめ、指導員網を通じて、各分會の生活刷新を徹底させる外、資源愛護運動としては、茶殼の蒐集献納運動を起し、好成績を擧げてゐるのでありまして、一面他團體との協力に依る蚊帳釣環蒐集献納運動も豫期以上の成績を擧げ又、生活刷新、物資の節約に依る愛國貯金の一億圓目標の達成運動を展開しましたが、本年十一月末現在に於ける成績は、組合數約一萬、口數約五百三十萬、貯金月額約二百六十萬圓、一ヶ年の貯金總額は約四千五百萬圓に上つて

居りますが、更に優良愛國貯金組合の表彰等をも行ひました。

備考

蚊帳釣環蒐集成績（十二月二十五日現在）一三三、八七〇貫

茶殼蒐集成績（十二月十三日現在東京市のみ他は未報告）一〇、七九〇貫

生活刷新指導者養成講習會開催一覽（○印は中堅婦人等を集ねたるもの）

○島根縣支部	二個所	三百五十名
福井縣支部	一個所	二百四十名
○秋田縣支部	一個所	百五十名
○埼玉縣支部	一個所	百名
○宮城縣支部	二個所	三百五十名
○新潟縣支部	二個所	三百五十名
○福島縣支部	二個所	四百名
○和歌山縣支部	一個所	二百五十名
○北海道廳支部	一個所	二百名
○德島縣支部	一個所	九十五名
愛媛縣支部	一個所	八十名
計十一支部	十五個所	二千五百六十五名

尙左記個所は本年一月中開催の決定を見ました。

臺灣本部	
臺北州支部	一個所
新竹州支部	一個所
臺中州支部	一個所
臺南州支部	一個所
高雄州支部	一個所
澎湖廳支部	一個所

臺東廳支部　一個所
花蓮港廳支部　一個所

〔五〕本會通常總會及支部總會その他

第三十九回會員通常總會

大東亞共榮圏建設の重大な使命に輝く國家の爲、銃後婦人として盡忠報國の鋼鐵の覺悟を示す本會第三十九回會員通常總會は畏くも　皇后陛下の行啓を仰ぎ奉り、十月九日午後二時半より明治神宮外苑競技場に於いて、いとも嚴肅に擧行致されました。

この日　總裁殿下各名譽會員殿下を始め奉り、陸軍大臣代理、本庄軍事保護院總裁、水野顧問其の他多數名士の臨席の下に、內地、朝鮮、臺灣は云ふまでもなく、遙に、北米ロスアンゼルス等より參集せる約五萬の會員はかゝる無二の光榮に輝いて一層烈々たる婦人報國の意氣に燃えたのでありました。

式上畏くも　皇后陛下より玉音いとも御麗しく優渥なる　令旨を賜はり、之に對し總裁殿下より恭しく奉答遊ばされました。

支部總會

各支部中昨年會員總會及有功章御親授式を擧行いたしましたところは左記一府三縣支部であります。

いづれも　總裁殿下の台臨を仰ぎ奉り盛大に擧行されました。

群馬縣支部總會並に御親授式（四月二日）　參會者　三萬二千名
有功章拜受者　三千二百五名

宮崎縣支部總會並に御親授式（十月二十日）　參會者・二萬一千名
有功章拜受者　一千四百九十八名

大分縣支部御親授式（十月二十三日）
有功章拜受者　二千十四名

大阪府支部御親授式（十月二十五日）

有功章拜受者　五千八百五十五名

尙、宮崎縣支部に於ては便宜特に福岡縣支部有功章拜受者七百八十名に對し伺親授あらせられました。

臨時總會

九月五日東京市神田區一ツ橋共立講堂に於て本會定款中改正の件（理事定員增加）に關し臨時會員總會を開催いたしました。當日の參會者は一千百三十八名を算し滿場一致原案を可決致しました。

右の改正に基き從來の婦人理事の外に新に左の六氏が理事に就任いたしました。

總理府恩賞課長	藤村益藏氏
海軍省第二課長	冨永昌三氏
厚生省社會保護課長	高橋敏雄氏
內務省地方局振興課長	村田五郎氏
軍事保護院援護局扶助課長	越野菊雄氏

小原新三氏

小原新三氏は同時に常任理事に就任いたしました。

地方本支部分會役員懇談會

例年會員通常總會を機として、全國分會役員の意見や經驗談を發表する、この會は昨年も十月十一日午前十時から赤坂三會堂に於て開催されました。當日の意見及經驗談の發表者は

愛媛縣角野町分會長	松本幾代
京城府分會西部第六分區長	金玩禎
横濱市中區分會一本松少女團副團長	古澤歌子
北海道久遠村分會長	栗田佳代
長崎縣川棚町分會長	崎村ハル子
新潟縣金澤村分會副長	小菅タマ
埼玉縣原谷村分會幹事	大野孟子

栃木縣小山町分會副長　青柳カツ子
京城府分會竹添町分區長　小寺一念
東京市小石川區分會副長　藤井千代
東京市大森區分會幹事　細川武子
東京府秋留村分會副長　井上ハル
茨城縣菅谷村分會長　中野喜代
奈良縣奈良市分會第一分區副長　村田シゲ
三重縣久居町分會長　高尾加壽
宮城縣篭嶽村分會長　佐々木ツル
山形縣酒田市分會長　齋藤乙井
廣島縣平良村分會副長　清光マスヨ
高知縣高知市旭分會長　氏原直喜
福岡縣門司市分會古城分區長　隅田壽和子

大分縣宇佐町分會副長　河野トヨ
熊本縣花簇分會長　邊春ハルエ

の諸氏でありました。この各の烈々火をはく樣な熱心な發表は滿堂の聽衆を感激の嵐の中に醉はしめると同時に、會務の開拓に關する新しい示唆を與へ、又地方の特異性をも併せ知らしむる等聽衆を啓發するところが極めて大でありました。

婦人報國祭

地久節の佳辰に際し本會が行つて參りました『婦人報國祭』は本年も亦各地に亘り極めて盛大に擧行せられ、會衆一同、皇室の彌榮を壽ぎ奉ると共に、時局下銃後婦人の覺悟を一段と强固ならしめたのであります。

日の皇子の祝ひ日

又十二月二十三日　皇太子殿下御降誕の日に當り、本會が年々行ひ來ました『日之皇子の祝ひ日』は、本年は特に紀元二千六百年をも奉祝する意味をも籠め、各地とも盛大に開催せられ、東京に於ては例年の如く市内保育所の兒童二千六百名及第一陸軍

病院傷兵を招待し、日比谷公會堂に於て盛大な式典を擧行すると同時に、幼い子供達の餘興を添え日の暮れるまで歡を盡したのでありました。

紀元二千六百年記念式典

紀元二千六百年奉祝の式典が擧行せられました直後、本會に於ても聖壽の無窮を祈念し奉り、併せて興亞の聖業達成の爲に會員の覺悟を堅持せしむべく、十一月十一日をトして神田區一ツ橋共立講堂に於て奉祝式典を擧行致しました。式後、大政翼贊會總務下村宏氏及文學博士中村孝也氏の講演及「小菊咲く丘の下に」の愛國劇の上演等がありました。

〔六〕 會員增加の趨勢及歲出決算

今次事變勃發以來、會員增加の趨勢は益々上騰を加へ、昨年一年間に於ける增加會員數は約百萬を算し、現在會員總數は六百萬人を越えるに至りました。

今、最近五ケ年間に於ける本會々員總數及歲出決算の趨勢を各年別に表示致しますと左の通りであります。

(イ) 會員數

昭和十年度	二、三五四、七六三人
同 十一年度	二、五七九、七九七人
同 十二年度	三、三三七、三〇二人
同 十三年度	四、二二一、四九三人
同 十四年度	五、〇〇一、三九七人
同 十五年度	六、〇一〇、五八六人

(但し十五年度は十二月十六日現在)

(ロ) 歲出決算

年次	本部	東京部	地方本支部
昭和十年度	六一九、二九五(圓)	一、三四、二三三(圓)	二、五九九、七一六(圓)
同 十一年度	五四二、〇五一	一四八、〇四三	二、六六五、七〇七

同　十二年度	五六〇、七二八	三〇〇、一六三	三、二九四、四〇三
同　十三年度	六七六、八四七	八四三、八一五	五、五二五、三三五
同　十四年度	一、〇三四、二〇七	八三九、二九四	七、六六五、一七二

（但し特別會計發行所支出は本部中に繰入る）

其の他

分會支出推定額　金六百七十五萬圓

分區支出推定額　金五百二十萬圓

會員支出推定額　金三百五十萬圓

昭和十四年度に於ける右支出經費總計推定額は約二千五百萬圓であります。

〔七〕全國組織整備の狀況

全國の分會總數一萬一千五百六十五（分會數は市、區、町、村の廢合に依り時々變更があります）の内組織濟のものは九千十二でありまして、未濟二千五百五十三は現に各

分會以下ノ組織整備ノ状況

部名	市區町村總數	組織整備ノ分會總合	分區ヲ組織セル分會數 全部	分區ヲ組織セル分會數 一部	以上分區總數	班ヲ組織セル分會數 全部	班ヲ組織セル分會數 一部	以上班ノ總數	組ヲ組織セル分會數 全部	組ヲ組織セル分會數 一部	以上組ノ總數	備考
朝鮮	府、郡、島 二三九	一五〇	一四九	一	一、六二三	一四九	一	二六、四八九	三五	三	五四、一五〇	
臺灣	市、郡 五二	六〇	五七	一	—	二〇	一	—	六	—	—	
滿洲	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
北海道	二七三	一九五	一九五	—	七八四	一八三	—	一、一〇五	二九	—	四四	
樺太	四二	四二	二〇	一五	二三二	一〇	五	六五五	—	—	—	
東京	一五〇	一二四	一〇三	—	五三九	七九	?	? 一、七〇三	一七	—	五、九二七	
京都	二一九	三三九	四四	—	三〇八	一四	一	二一五	八	—	六〇	
大阪	二〇七	二三四	二二〇	六	二三六	八七	—	八七	三	—	三	
神奈川	二二八	八四	四三	三	—	六三	一八	?	一七	—	?	
兵庫	三九九	—	二五四	五七	一、四四六	三〇	—	五〇一	二三	五	六七一	
長崎	一七六	一四八	五〇	三〇	四〇〇	七〇	三〇	五〇〇	—	—	—	
新潟	三九九	二三二	一九六	七四	六一九	一三六	九六	二、一七三	一〇三	四二	五、八九五	
埼玉	三五二	二六五	二五五	—	一八四	二四四	—	二、六七三	二五二	—	五、五三二	
群馬	二〇〇	一九三	一九三	—	一、一八二	六二	—	?	一〇	?	?	
千葉	三一二	三一二	三一〇	三	三三三	一六	—	一六	—	—	—	
茨城	三六三	一九八	一〇八	九〇	六三八	一四二	一〇	一、九二六	八	一八	四三一	
栃木	一七一	一六二	三四	三	三三四	六	—	一〇七	一	—	一七	
奈良	一五二	七二	一二	二	四六	五七	三	四六	二	一	五三	
三重	三三九	四二	一五二	—	九八〇	八九	三	二一〇	四四	四	一、一二八	
愛知	二三九	二〇八	二〇八	—	一、四八五	四五	二三	二、五三七	—	—	—	
靜岡	三一二	三〇九	一三三	—	?	三五	—	一、一〇四	—	—	—	
山梨	二二三	一五七	一五七	—	一、〇九一	三四	—	四九九	八	—	九九	
滋賀	一九二	一九二	一〇三	—	一、〇三〇	三四	—	九八〇	八	—	二四〇	
岐阜	三三六	三四七	一一七	二三〇	七八四	一二四	二三二	七七二	七三	二七四	九四四	
長野	三八二	一六〇	五四	一	三一四	八二	一	八二四	五三	二	一、二八四	
宮城	二〇二	一〇六	一五〇	—	一、〇二五	一五二	—	二、〇一五	一〇六	—	二、八九九	
福島	三六八	三六八	三五二	一六	二、二三六	二九六	七二	七、六二三	一五六	一三二	二、八四四	
岩手	二二三	二二〇	一八六	—	?	二二四	—	? 三二四	一六二	—	? 一六二	
青森	一六五 市内二九	一六〇	一四二	一九	九六三	一三二	二八	五、六四二	三三	一三	三六二	
山形	二二八	九〇	四六	—	四六	四二	—	? 四二	二	—	? 二	
秋田	二二六	二四四	二二四	—	一、九二五	二二四	—	九、六二〇	一六八	—	三七、八〇〇	
福井	一六六	一六八	一五九	七	一、九九七	五	一六二	七九	—	二	七一〇	
石川	一九三 市内分會ヲ加フ	二二八	一七	三	一四〇	一〇	—	三五	—	—	—	
富山	二六四 市内分會ヲ加フ	二七五	二一一	—	六七二	九六	一六	一、三四四	五七	二六	八四〇	
鳥取	一七三	一四四	九五	四九	一、一五六	五二	三三	二、五五〇	—	—	—	組ノ必要ヲ認メザル意見
島根	二七八	二〇二	六二	—	二九四	一五〇	—	二、二九三	六〇	—	二、〇一五	
岡山	三八三	三八三	一〇四	九九	一、一四二	一一三	五三	八四二	?	?	?	
廣島	三六二 市内分會ヲ加フ	四三五	一三九	—	九五二	五二	—	一、三四九	一五	—	二七〇	
山口	一九七	一七〇	一四〇	—	一五八	一一〇	—	一二五	一五	—	一五	
和歌山	二二〇	一八九	二	四	一五	一八九	—	二、二六八	一八九	—	一〇、四五〇	
徳島	一四七 特別二	一四七	五九	一六	六四八	九	三	五三	二	二三	五八	
香川	一七二	一二六	一七二	—	六九九	一六〇	—	二、一九六	一三六	—	六、〇四八	
愛媛	二六一	一五七	一四〇	一七	六八〇	八三	二七	八九〇	四七	三	一、〇八八	
高知	一八八	一九九	三〇	—	一八〇	一五	—	一三三	一〇	五	一五〇	
福岡	三〇六 市内分會ヲ加フ	三二四	一七五	八	一、六八一	九八	一九	二、九八二	四	一	一、二七五	
大分	二四〇	二三〇	一三九	五	一、四三二	一八二	五	三、八〇五	八二	六	一、九〇二	

大阪	二〇七	二三四	二一〇	六	一二六	八七	—	八七	三	—	三	
神奈川	二一八	八四	四三	三	—	六三	一八	?	一七	—	?	
兵庫	三九九	—	二五四	五七	一、四四六	三〇	—	五〇二	三	五	六七一	
長崎	一七六	一四八	五〇	三〇	四〇〇	七〇	三〇	五〇〇	—	—	—	
新潟	三九九	三三二	一五八	七四	六二九	一三六	九六	二、一七三	一〇三	四二	五、八九五	
埼玉	三五一	二六五	二五	—	一八四	二五四	—	二、六七三	二五一	—	五、五三二	
群馬	二〇〇	一九三	一九三	—	一、一八二	六二	—	?	一〇	?	?	
千葉	三三二	三三二	二二〇	三	二三三	一六	—	一六	—	—	—	
茨城	三六三	一九八	一〇八	九〇	六三八	一四三	一〇	一、九二六	八	一八	四三三	
栃木	二一七	一六二	二四	三	三四四	六	—	一〇七	一	—	一七	
奈良	一五一	七二	一三	二	四六	五七	三	四六	二	一	五三	
三重	三三九	四二	一三三	—	九八〇	八九	三	二三〇	四四	四	一、一一八	
愛知	二三九	二〇八	二〇八	—	一、四八五	四五	三三	二、三五七	—	—	—	
静岡	三一一	三〇九	三三二	—	?	三五	—	一、一〇四	—	—	—	
山梨	二二三	一五七	一五七	—	一、〇九九	三四	—	四九九	八	—	九九	
滋賀	一九二	一九二	一〇三	—	一、〇五〇	三四	—	九八〇	八	—	二四〇	
岐阜	三二六	三四七	二一七	二三〇	七八四	二一四	二三二	七八二	七三	二七四	九四四	
長野	三八二	一六〇	五四	一	三二四	八三	一	八五四	五三	二	一、二八四	
宮城	二〇二	一〇六	一五〇	—	一、〇二五	一五二	—	二、〇二五	一〇六	—	二、八九九	
福島	三六八	三六八	三五二	一六	二、二二六	二九六	一二	七、二八三	一五六	二三一	二、八四四	
岩手	二三三	二二〇	一八六	—	?	二二四	—	? 二二四	一六二	—	? 一六二	
青森	一六五 市内一九	一六〇	一四二	一九	九六三	一三二	二八	五、六四二	三二	一三	三八二	
山形	二二八	九〇	四六	—	四六	四二	—	? 四二	二	—	? 二	
秋田	二三六	二四四	二二四	—	一、九二五	二二四	—	九、六二〇	一六八	—	二七、八〇〇	
福井	一六六	一六八	一五九	七	一、九九七	五	一六二	七九	一	二	七一〇	
石川	一九三 市内分會ヲ加フ	二二八	一七	三	一四〇	一〇	—	三五	—	—	—	
富山	二六四 市内分會ヲ加フ	二七五	二一三	—	六七二	九六	一六	一、三四四	五七	二六	八三〇	
鳥取	一七三	一四四	九五	四九	一、一五六	五二	三三	二、五五〇	—	—	—	組ノ必要ヲ認メザル意見
島根	二〇八	二〇二	六二	—	二九四	一五〇	—	二、二九三	六〇	—	二、〇一五	
岡山	三八三	三八三	一〇四	九九	一、一四二	一二三	五三	八四一	?	?	?	
廣島	三六二 市内分會ヲ加フ	四二五	二一九	—	九五二	五一	—	一、三四九	一五	—	二一〇	
山口	一九七	一七〇	一四〇	—	一五八	一一〇	—	二五	一五	—	一五	
和歌山	二二〇	一八九	二	四	一五	一八九	—	二、二六八	一八九	—	一〇、四五〇	
徳島	一四七 特別二	一四七	五九	一六	六四八	九	三	五三	二	三	五六	
香川	一七二	一二六	一七二	—	六九九	一六〇	—	二、一九六	一二六	—	六、〇四八	
愛媛	二六二	一五七	一四〇	一七	六八〇	八二	一七	八九〇	四七	三	一、〇八八	
高知	一八八	一九九	一三〇	—	一八〇	一五	—	一三一	一〇	五	一五〇	
福岡	三〇六 市内分會ヲ加フ	三一四	一七五	八	一、六八二	九八	一九	二、九八二	四	一	一、一二五	
大分	二四〇	二三〇	一九九	五	一、四三一	一八二	五	三、八〇五	六二	六	一、九〇一	
佐賀	一三五 特別一	一三六	一三六	—	?	一三六	—	?	—	—	—	
熊本	三四五	四三	四一	二	五〇三	二五	一	七五五	一六	一	一、五六三	
宮崎	九〇	四二	一四	—	?	一三	?	?	—	—	?	
鹿兒島	一四〇 市内三	一四二	一四二	—	五七九	一二	—	三、九九六	—	—	—	組ヲ設クル要ナレト
沖縄	五七	三	三	—	四七	—	二	一二五	—	一	一〇	
海外												
計	一一、五六五	九、〇二三	五、六八〇	七七〇	三三、五二六	四、四五三	八六四	九八、二六〇	一、九九七	六七九	一四七、三二一	

地に於て整備中でありますから、昭和十五年度中（昭和十六年三月末日迄）には大部分の整備を遂げ得る豫定であります。

分區は全國を通じ約六萬であつて、之が組織を了した分會は昭和十二年二月末現在に於て、千三百七十六箇所でありましたが、昭和十五年十月末には五千六百八十箇所（分區總數三萬三千五百十六）となり四千三百四の增加を示してをります。

尙『班』の組織は昭和十二年二月末には五千九百七十班でありましたが、昭和十五年十月末現在では九萬八千二百六十班（分會數五千三百十七）に增加し、又『組』の組織は現在十四萬七千三百十一を算へ、事變以來各地とも之が緊要性を痛感し、一時に劇增したものでありまして、以上は何れも分會組織の完遂と相俟つて本年度中に概ね完成の豫定であります。

因に、本支部別の組織整備の狀況は別表の通りであります。

〔八〕 愛國子女團の現況

時局下、婦人報國精神の涵養及鍛錬を指標とする愛國子女團は、昨年中新に設置されたもの百四十八、内五十八は岩手縣支部のものであります。前年迄設置統計表上委を見せなかつた八支部の内、和歌山縣支部に十五、宮崎縣支部に十三、其の他山梨、沖繩の各縣支部にも續々結成を見るに至り本團は一段の活況を呈するに至りました。

昨年末現在、團數二千六十、團員數四十六萬五千であります。

〔九〕 會誌「愛國婦人」の現況

會誌「愛國婦人」は年々加速度的に發展の狀況を示してをりますが、昨年は一昨年の發行部數より約三割五分强の增加を見ました。尙毎月の購讀以外「愛國婦人」約十萬部、慰問用繪はがき約四十萬部を戰線へ發送いたしました。

〔一〇〕其の他

主事會議

銃後を確保して、事變第四年に巨歩を印する愛婦の新體制は如何に運用せらるべきかを具さに檢討する爲、主事會議を五月二十八日から三十一日に至る四日間、本部に於て開催いたしました。諮問事項中には本會使命の根幹に觸れる事があり、活潑な意見の交換が行はれ、今後の會務推進上その據るところを明かにすることが出來たと存じます。

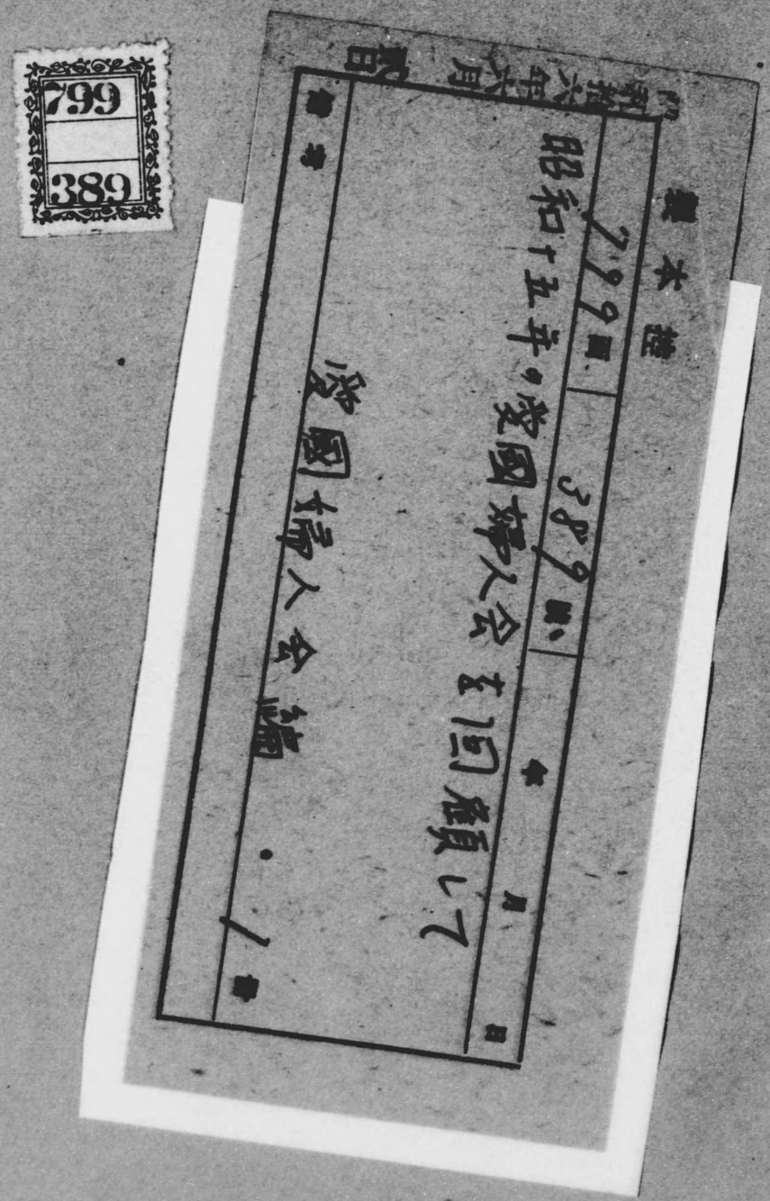
又、會員通常總會に、地方本支部主事の上京を機とし、十月十二日本部講堂に於て主事懇談會を開き、家庭强化運動の徹底、授產事業の運營方策、本會と銃後奉公會並部落町内會との關係に關する件等につき隔意なき意見の交換を遂げました。

本部職制改革

本部職制は事變前の制定に係り、最近に於ける會員の激增と内外の情勢に卽應して本會の中樞機關たる機能を發揮するには不備が感ぜられて來ました。之を改正し事務總長の直屬下に秘書、調査、情報の三課を置き、他に總務、會計、事業の三部を置き總務部

に庶務、指導の二課、會計部に會計、物品紹介の二課、事業部に軍人援護、事業の二課を新設し、尙各課長の下に係主任を設けて組織を整備し一層事務の連絡の圓滑化と能率増進とを圖ることとし、八月八日より之を實施致しました。

東京部に於ても新に庶務、指導、事業の三課を設け、右と同樣に改革を實施致しました。



に庶務、指導の二課、會計部に會計、物品紹介の二課、事業部に軍人援護、事業の二課を新設し、尙各課長の下に係主任を設けて組織を整備し一層事務の連絡の圓滑化と能率增進とを圖ることとし、八月八日より之を實施致しました。

東京部に於ても新に庶務、指導、事業の三課を設け、右と同樣に改革を實施致しました。

799
389

昭和十六年一月二十日印刷
【非賣品】
東京都麹町區八重洲一ノ五
愛國婦人會

BASE
007